

森之宮記者クラブ、近畿建設記者クラブ、大阪建設記者クラブ会員各位  
(同時提供先：大阪経済記者クラブ)

大阪商工会議所×UR都市機構 まちなかりビングラボプロジェクト第2弾

大阪城東部地区（UR森之宮ビル「ほとりで」等）における実証実験

## 「生成 AI との個別対話と対面による集団対話を 組み合わせた回想法の実証」を開始

【お問い合わせ先】

■大阪商工会議所 産業部 産業・技術振興担当(松村、勝部、長尾)

TEL：06-6944-6300

■独立行政法人都市再生機構 西日本支社

都市再生業務部（田村、小田、柏井、下村）

TEL：06-4799-1172

- **株式会社新聞印刷**（代表取締役＝福山耕治、本社：大阪市天王寺区、以下、新聞印刷）は、**「生成 AI との個別対話と対面による集団対話を組み合わせた回想法の実証」**をUR森之宮ビル「ほとりで」で実施します。本実証実験は、大阪商工会議所とUR都市機構が共同で公募・採択したもので、大阪城東部地区のフィールド「UR森之宮ビル（ほとりで）」、「UR森之宮団地」、「UR森之宮第2団地」を活用します。
- 近年、高齢者の認知機能の低下防止や、社会的孤立の解消の手段として、高齢者が昔の思い出を語り合う「回想対話」が注目されています。しかし、従来のプログラムでは、省人・省力化や継続性の確保が課題でした。新聞印刷は、このような課題を解決するため、**「生成 AI との個別回想と、対面による集団回想を組み合わせたハイブリッド型の回想法を実施」**し、高齢者の QOL 向上にどれほど寄与するかを検証します。
- 本実証実験では、参加者を「生成 AI との対話と対面による集団対話を行う」グループと「生成 AI との対話のみを行う」グループの2つに分け、簡易認知機能テストおよび心理状態に関するアンケートを実施することで、グループ間の効果を分析します。このデータ分析を通じ、「集団回想」がもたらす心理的・認知的効果を実証します。7月16日（木）に参加者を対象とした説明会を「UR森之宮ビル（ほとりで）」にて開催し、定期的な対面による集団回想を交えて9月25日（金）まで実施予定です。
- 新聞印刷は、本実証実験で得られた知見を活かし、企業退職者向けのフレイル予防サービスなどの事業化を目指す予定です。

## 【実証実験の概要】

1. 実施期間：2026 年 7 月 16 日(木)～9 月 25 日(金)
2. 実施場所：UR 森之宮ビル「ほとりで」(大阪市城東区森之宮 1 丁目 6-85)
3. 実施主体：株式会社新聞印刷 代表取締役 福山耕治  
本社：大阪市天王寺区東高津町 5-17

## ■実証実験の目的

本実証実験は、大阪城東部地区などに居住する 60 代～80 代の高齢者を対象に、生成 AI との個別対話と対面による集団回想を組み合わせたハイブリッド型の回想法の有効性を検証することを目的とします。高齢者の回想対話は、認知機能の維持や孤独感の軽減、心理的活性化に資する一方、継続的な実施には人的負担が大きく、継続して参加してもらうことについて課題があります。本実証では、AI を「聞き手」として活用し、日常的に自身の過去を振り返る仕組みを整えつつ、対面による集団回想が加わることで、会話量や交流意欲、認知面・心理面にどのような差が生じるかを検証します。実験から得られた知見は、企業退職者向けのフレイル予防サービスや自分史サロンなどへの事業展開に活用し、高齢者の QOL 向上に寄与するモデル構築を目指します。

## ■実証内容

実験では、参加者を「生成 AI との対話と対面による集団対話を行う」グループ(以下、A 群)と「生成 AI との対話のみを行う」グループ(以下、B 群)に分けて比較検証を行います。A 群、B 群の全参加者は LINE をベースとしたカスタマイズアプリ「Kikune(きくね)」を用い、生年月日、出生地、職歴、時代背景などに基づく質問を受けながら、日常的に AI との回想対話を行います。さらに A 群はこれに加え、UR 森之宮ビル「ほとりで」において 2 週間に 1 回を目安に、「幼少期の思い出」や「大人になってからの思い出」などのテーマを設けて、参加者同士で振り返りを行う集団回想に参加します。集団回想の狙いは、AI との対話にとどまらず、他者と記憶を共有することによって、「私も」という共感を生み、会話の広がりや継続的な対話促進につなげる点にあります。また、実証実験終了時には、参加者に対して、生まれてから現在までの自分の環境や経歴、経験などをまとめた「自分史」を渡す予定です。



▲同実証実験における集団回想の役割



▲同実証実験におけるグループごとの比較検証

以上

## ＜参考：大阪城東部地区（UR森之宮ビル「ほとりで」等）での実証実験公募について＞

大商とUR都市機構は、将来の大阪の「ヒガシ」の拠点として注目を集める大阪城東部地区にある、「UR森之宮ビル（ほとりで）」、「UR森之宮団地」、「UR森之宮第2団地」を活用し、企業・団体の先端技術などにより「さまざまなくらしのカタチ」を体現する実証実験を、2025年12月15日から2026年1月30日まで募集しました。全国から寄せられた9件の提案のうち、5件を実証実験実施案件として採択しました。

### ◆大阪城東部地区実証実験公募時 プレスリリース（2025年12月15日）

[https://www.ur-net.go.jp/west/press/rquj5t000000aye7-att/20251215\\_kisyasiryou\\_matome.pdf](https://www.ur-net.go.jp/west/press/rquj5t000000aye7-att/20251215_kisyasiryou_matome.pdf)

### ◆大阪城東部地区実証実験実施案件決定 プレスリリース（2026年4月8日）

[https://www.ur-net.go.jp/west/press/bn5k440000001kcy-att/20260408\\_machinakalivinglab2\\_prerelease.pdf](https://www.ur-net.go.jp/west/press/bn5k440000001kcy-att/20260408_machinakalivinglab2_prerelease.pdf)